

# 手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議（平成29年度第3回）

## 結果概要

日 時：平成29年11月24日（金）午前10時30分～午後0時05分  
場 所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）  
出席者：別紙のとおり

### ○報告事項

#### ◇ 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催について（資料1）

第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「第4回大会」という。）の開催結果について、その概要を報告した。また、併せて審査結果（審査得点・審査員評）及びアンケート（来場者・引率者・出場高校生）の結果についても報告した。



#### ◇ 第4回大会における取材及びテレビ等の放送実績（資料2）

第4回大会への県外からの取材及び第4回大会に係るテレビ放送の状況について、報告した。

#### 【各委員の意見】

- ・特になし。

### ○協議事項

#### ◇ 第4回大会への御意見・御感想等（資料3）

会議に先立ち、第4回大会の“良かった点”“改善すべき点、工夫が必要だった点”等について、各委員から事前に寄せていただいた内容を全員で共有した。

#### 【各委員の意見等】

##### [大会日程・会場]

- ・高校の年間行事等が既に決まっており、毎年大会日程が変わるのは、参加校を増やすためにも望ましくない。大会日程を毎年〇月の第〇週に開催するというように固定し、早めに発表できれば、高校にとって計画的な参加の検討を行うことができる。また、今回のとりぎん文化会館は、会場の入口で全体を見渡す（ホール以外の催しを一目で認識可能）ことができ、イベント全体が一体に感じることができるとてもいい会場だった。“手話の聖地”と位置づけるには、最適な会場だと思う。ぜひ、毎年とりぎん文化会館で開催できるよう検討してほしい。[田中委員・森原委員・国広委員]
- ・会場を固定化することで、前回大会で発生した問題点の改善がしやすくなる。[森原委員]
- ・日程や会場の決定にあたって、“この日程で開催するのでご協力をよろしく”とシンプルに依頼することができないか。最終的な決定機関との兼ね合いもあると思うが。[国広委員]
- ・大会日程が決まらない点については、高校だけではなく、審査員のスケジュールを押さえる点でも問題がある。日程が決まらないとしても、候補日を提示してもらえると、少しでも調整がスムーズになる。ぜひ、お願いしたい。[大杉委員]
- ・（ボランティア活動を行っている）県内各地の高校生がまんべんなく3年に1回、身近なところで参加することができる、また小中学生が大会に参加する機会づくりという観点で考えると、会場は東中西の3地区で回していただいたほうがいいのかなと思う。大会のこれからの方向性も考えながら、決定していただければ。[寺谷委員]



- ・“手話の聖地”として県全体に広めていくという観点で考えると、3地区の持ち回り開催がいいと思う。日頃、西部地区に住んでいるが、東部地区は遠く感じる。3年に1回、各地区で開催されるということではいいのでは。[山根委員]

⇒ 大会日程については、固定化することのメリットを十分理解しており、なるべく早く日程を決定できるよう調整を行っていきたい旨を説明するとともに、関係機関との調整の中で、実行委員会の都合だけでは決めることができない事情があることも説明した。また、会場を固定化するのか、引き続き持ち回り開催とするのかについて、そのメリット・デメリットを整理して、実行委員会総会に諮りたい旨を説明した。



#### [高校生等の大会への参画]

- ・今回、高校の出店について、スペースの関係で2～3校程度でお願いしたいという話を事務局からもらったので、その範囲で校長に直接交渉した。もう少し多くの高校が出店できるのあれば、さらに声掛けができる。ぜひ、こちらからも働きかけをしていきたい。[山根委員]
- ・今回、中間考査の時期と大会の開催が重なってしまい、ボランティア等で高校生が参加しづらかった面があった。[山根委員]
- ・(西部地区の高校に限られるが) JRC (青少年赤十字) 部に事務局から働きかけを行えば、もう少しボランティアの参加があったかもしれない。ぜひ、JRC部への働きかけをお願いしたい。校長会でも働きかけていきたい。[山根委員]
- ・私立高校には、インターアクトクラブというボランティア活動を束ねる組織がある。ぜひ、こうした組織を活用していただきたい。今後、回数を重ねる中で、少しずつでも高校生ボランティアの参画を増やしていただきたいと思う。[佐伯委員]
- ・高校生だけではなく、中学生や小学生にも大会に興味を持ってもらえるよう各小中学校に案内をしてみてもどうか？将来、大会の参加やボランティアへの参画を見据えて、大会を知ってもらえる機会になると思う。[佐伯委員]
- ・大会のチラシやポスターを各小中学校に届けるルートが教育委員会にはある。ぜひ、子どもたちに大会を周知できるよう(教育委員会として)対応させていただきたい。[寺谷委員]
- ・大会を通じて、高校生が参加できると思われるアクションがあった。ぜひ、可能なところに高校生の参加の機会を与えてはどうかと思う。例えば、昼休憩中に行ったしゃんしゃん傘踊りのステージでは、智頭農林高等学校の麒麟獅子などが参加できる。高校生が活躍できないかという観点で、今後も提言していきたい。

⇒ ご意見について了解。今後の協力を要請した。

#### [審査]

- ・年々、演技技術の質が高まっている。目標があるからこそ、高等学校・特別支援学校ともにそれぞれ工夫してさらに高めていくという理念や狙いがあるのであれば、適切な審査基準についても工夫していく必要があると思う。[大杉委員]
- ・例えば、奈良県立ろう学校は照明や音響のキュー出しを生徒が行っていた。他の演劇の大会のルールを知っていて、当然に生徒が行うというスタンスだった。ぜひ、他の大会のルールを参考にして、生徒が舞台を作っていくという方向性で、できることからルール作りを行っていく、手話ができないのが裏方なら協力ができるという参加方法もいいこと。校内にかぎらず、近くの高校(高等学校と特別支援学校)で協力して、大会に参加していくこともいいと思う。大切なのは、共生社会の実現という理念を目指して、その理念に合わせた工夫をこれから盛り込んでいかなければならないということ。[大杉委員]



- ・本大会の審査協議を聞いたが、先生が音声通訳を行うのはどうか、ろう学校の生徒の演技に高等学校の生徒が通訳を担当するといった方法があるのではないかと、そのことが両校の交流のきっかけになるのではないかと意見があった。確かにそのとおりだと思う。ぜひ、音声通訳の基準を明確にしてはどうかと思う。[田中委員]
- ・手話スピーチコンテストで行っているように、演技後のインタビューにおける手話表現も審査基準に入れてはどうかということをご提案したい。ろう者との意思疎通の方法としても手話言語は意味がある。手話のパフォーマンスをして終わるというだけではなく、インタビューを通じた手話のコミュニケーションも、審査基準に含めてほしい。[戸羽委員]
- ・いい方向性だと思うが、質疑応答にも審査をしなければならなくなる。審査基準に含めるとなると、別の課題も出てくるだろうと思う。[大杉委員]
- ・おっしゃるとおり。審査員が評価するにあたって、どんなインタビューをしたらいいのかというようなことも課題として出てくる。ただ、そういった思いがあるということをご承知いただきたい。[戸羽委員]
- ・インタビューまで審査に含めるとなると、高校生にとって（参加の）ハードルが上がって参加が難しくなってしまう。[山根委員]

⇒ 重視するポイントはどこかということも念頭に、今後ご相談しながら、改善を進めていきたい旨を説明した。



#### [広報]

- ・大きな大会では、メインストリートから会場まで、のぼりなどが一定間隔に掲示されている。（今回、若桜街道にのぼりが立っていたが）もっとのぼりが掲示されていれば、道行く人の目に留まって、大会のいい宣伝にもなる。[田中委員]
- ・スポーツの分野から、大会を広める力というのも非常に大きいと思う。地元のプロの団体などに協力してもらって、大会をPRしてもらい、大会を知ってもらう機会づくりについても、ぜひお願いしたい。[廣田委員]

⇒ ご意見について了解。ぜひ、関係機関等と調整を進めていきたい旨を説明した。



#### [その他]

- ・（上位組織である）実行委員会総会の委員が決定する前に、企画推進会議委員が事務局と一緒に今後の方向性のポイントを整理して、総会でご判断いただくいい材料をくるべく努力をすべき、それが我々委員の責任だと思う。意見を上げるだけではなく、例えば持ち回り開催するのか会場を固定化させるのか、他にも財政面の観点でどのように予算を確保していくのか、助成金を引き続き受けることができるのか、自主的な予算をつくる努力の必要性など、具体的な議論を行う必要がある。それぞれのメリット・デメリットをしっかりと整理して、総会に提案し、実行委員に説明できるよう我々が努力することが必要。[大杉委員]
- ・昨年、1校に賞が集中するのではなく、より幅広く出場チームへ表彰してはどうかという提案をさせていただいたが、よく御検討いただいて、まんべんなく出場チームに賞が行き届いたと思う。お礼を言いたい。[寺谷委員]
- ・大きな大会では、高校名が記載されたタオルなどはいいい記念になる。生徒はもちろん、保護者もほしいと思えるので、きっともっと売れると思う。売上が運営費に回るということであれば、なおさら多くの数を販売してほしい。[田中委員]
- ・第1回大会から大会に携わっているが、大会の深まりや広がりを実感している。例えば、音声通訳を先生が行うかどうかは校内で議論になっていた。今回、こういった点も議論に上がっているし、本校の卒業生が写真展の設営を手伝っていて、他県の方から以前の大会で見たなど声を掛けていただいたことがあった。ぜひ、今後もこの大会を大切に運営を進めていただきたい。[霜村教諭]

## ○その他

### ◇ 今後の日程について（資料4）

次回大会に向けた大まかな予定を含め、今後の日程について、事務局から説明。

### ◇ 予算の執行状況について（資料5）

予算の執行状況について、事務局から説明。

### 【各委員の意見】

特になし。

### ◇ その他

今後の支援（第6回大会以降）について日本財団と協議を重ねていくこと及び第4回大会出場校からの鳥取県中部地震への支援について報告した。

また、大会のPRチラシの配付について、協力を依頼した。



手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿  
(平成29年度第3回)

役職	所属・役職名	氏名(敬称略)	出欠 (代理:敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長	宮本 則明	出
委員	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長兼福祉・労働委員会委員長	戸羽 伸一	出
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	出
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 常務理事	野間田 憲昭	欠
	鳥取県教育委員会事務局 教育次長	寺谷 英則	出
	鳥取県高等学校長協会 会長	山根 孝正	出
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	佐伯 友茂	出
	鳥取県立鳥取聾学校 校長	三王寺 孝子	〔 教諭 霜村 新 〕
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	出
	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	出
事務局	障がい福祉課長	小澤 幸生	\
	障がい福祉課社会参加推進室 室長	明場 達朗	
	障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐	竹ノ内 司修	
	障がい福祉課社会参加推進室 係長	安永 孝文	